2026年度第2四半期決算説明会 質疑応答 （要旨）①

IHI

- **開催日：2026年11月4日(水)**
- **出席者：常務執行役員 財務部長 大嶋 裕美**

以下、決算説明会における主なQ&Aです。
内容は、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しています。
なお、お問い合わせを多くいただいた事項について、最終ページに補足情報を掲載しています。

［文中にてセグメント略称を使用］
- エネ ：資源・エネルギー・環境
- 社基：社会基盤
- 産汎：産業システム・汎用機械
- 空 ：航空・宇宙・防衛

質問者	質問	回答
1	**空の上期は2割程度伸長しているように見えるが、通期計画に上振れ余地はあるか。**	年間計画は為替影響以外は変更していない。今回の上方修正でも空のドルベースの見通しは据え置いている。今後は新製エンジンの出荷増加が減益要因となる一方、アフターマーケットは足元で好調である。全体の利益はもう少し期待できる可能性があると見ているが、サプライチェーンのひっ迫状況も踏まえ慎重に見ている 。
	スペアパーツの売上は想定より好調で、通期見通しに上振れ余地があると見てよいか。	スペアパーツの売上は想定をやや上回り、前年よりも少し強く成長した。全体の利益は引き続き見極めたい。
	エネ、産汎、社基について事業ごとの季節性を承知しているが、チャレンジングか保守的か、下期計画の確度を伺いたい。	全社としては、今回お示しした計画を達成できるという強い自信を持っている。エネは、前年度下期に計上した大幅なマイナスの反動に加え、低収益事業の譲渡が完了し、LCBも拡大しているため、やや強含みである。社基は計画をやや下回る可能性があるが、全社で吸収できる範囲と見ている。産汎の足元は好調であるが、おおむね計画どおりである。空は民間航空エンジン事業の動向を見極めつつ、計画の達成を目指している。
	200億円のリスクバッファーのうち、今回充当した140億円を除く60億円の考え方を教えてほしい。エネが強含みとの見方は、リスクバッファーを含んでいるか。	200億円のうち140億円は、今回、エネに充当した。残る60億円は、中東の大型LCB案件のスケジュール遅延による下振れリスクや、事業譲渡に伴うコンサルティング費用、車両過給機事業を含む固定費の最適化など、来年度の収益性向上に向けた対応費用を想定している。
	エネが強含みとの見方は、中東の大型LCB案件の影響を除いたものか。	そのとおり。

© IHI Corporation All Rights Reserved.

2026年度第2四半期決算説明会 質疑応答 （要旨）②

質問者	質問	回答
2	**エネのLCB拡大による50億円、産汎のコスト構造強化による20億円の上方修正について、背景を伺いたい。**	エネでは、国内の石炭火力発電所などのメンテナンスが非常に好調である。原動機事業でも非常用電源向けの売上やLCBが拡大しており、国内事業が堅調に推移している。産汎でも、パーキング事業や物流事業などのLCBが強く推移しているため、見通しを修正した。
	LCBの好調は、中東情勢の影響やこれまで保守的に見ていた反動によるものか。また、継続性をどのように見ているか。	中東情勢との直接的な関係は明確ではないが、間接的な影響はあると考えている。また、全社でコストや費用を見直し、限界利益率の高い事業へ経営資源を振り向けるなど、収益性を重視した経営を進めてきた。こうした継続的な取り組みの効果も表れ始めている。
	空の見通しは為替影響のみの変更だが、防衛・宇宙を含め、さらなる上振れ余地はあるか。また、為替影響は上期分のみ反映しているか。	民間航空エンジン事業はさらなる上振れを期待しているが、部品供給の逼迫などサプライチェーンの状況を踏まえ、慎重に見ている。防衛と宇宙は、現時点では計画どおり。今回の見通しでは、従来の145円/USDから、下期も5円の円安を織り込み150円/USDとした。
	防衛の受注見通しも、現時点では変更していないという理解でよいか。	今年度については、今回お示しした計画に変更はない。来年度以降は、最新の情報を踏まえて見極めたい。
3	**空の利益率が下期に低下する背景と、新製エンジンの出荷見通しを伺いたい。**	下期は防衛の売上・検収が進むため、セールスミックスにより利益率は低下し、通期では現在の計画水準に落ち着くと見ている。新製エンジンについては、前年度は下期に大きく出てきた。今年度もしっかりお客さまと合意した台数の出荷に取り組んでおり、現時点で期初計画から大きな変更はない。
	新製エンジンは、期初計画どおり前年度比▲70億円の減益要因との見方に変更ないか。	そのとおり。
	産汎の前年同期比▲143億円の減益要因に、事業譲渡以外の項目は含まれているか。	小規模な事業譲渡も含まれるが、主に前期の運搬機械事業の譲渡による反動である。
	来年度の産汎は事業譲渡の反動がなくなり、平常化すると考えてよいか。	そのとおり。

© IHI Corporation All Rights Reserved.

2026年度第2四半期決算説明会 質疑応答 （要旨）③

質問者	質問	回答
4	**原子力事業の受注見通しを700億円程度から800億円へ引き上げた要因は、先日報道があったウェスチングハウス関連案件か。また、原子力事業の受注残高を教えてほしい。**	原子力事業の上方修正は、先日報道があった案件とは異なる。当該案件は従来の見通しに織り込んでいる。また、原子力事業の受注残高は約1,000億円である。
	収益性向上に向けて、具体的にどのようなコスト抑制に取り組んでいるか。	粗利益については、限界利益率の高い事業に経営資源を振り向けている。販管費についても、将来の利益に結びつく費用か、本社費を含めて本当に必要な費用かを厳格に見極めている。特別な施策ではなく、基本的な経営管理を愚直に実行している。
	人員増加や賃金上昇により、今後、販管費が増加する懸念をどのように見ているか。	人件費は増加する見込みであるが、売上高に対する販管費比率が上昇しないよう管理していく。
5	**エネについて、上期の上振れ分のみを通期計画に反映し、下期のLCB拡大やコスト構造強化は従来計画を据え置いたため、余裕を含んだ計画になっているという理解でよいか。**	LCBは、大規模な点検作業が上期に集中する傾向がある。下期も積み増しを目指しているが、現時点では今回お示しした計画としている。
	産汎のコスト構造強化は、上期に37億円の増益要因となった一方、下期は▲8億円の減益要因となる計画。背景を伺いたい。	上期は、販売価格の改善などにより非常に強く推移した。下期については、中国を含む事業環境を見極める必要があるため、現時点では今回お示しした計画としている。
	来年度の防衛予算の概算要求を踏まえ、中期的な防衛事業の売上高見通しに変更はあるか。	現時点で確定的なことは申し上げられない。5月に開示した数字は達成できるとの手応えがある。さらなる上積みについては、今後見極めたい。
6	**エネの下期の利益率約10%は、来年度も期待できる実力値と考えてよいか。**	収益性が他の3事業より低いアジアEPCの変動により、セグメント全体の利益率は大きく変動するが、アジアEPCを除けば10%以上と見ている。

© IHI Corporation All Rights Reserved.

2026年度第2四半期決算説明会 質疑応答 （要旨）④

質問者	質問	回答
6	**FCAS*の打ち切りの話が聞こえてくるが、それによるGCAPにおけるIHIの位置付けや共同研究への影響について、今どのように考えているか。**	現時点で、当社からお答えできることはない。 *FCAS（Future Combat Air System）：フランス、ドイツ、スペインが共同開発を進める次世代戦闘航空システム。
7	**エネは、今後、安定的に300億～400億円程度の利益を確保できる体制になると考えてよいか。また、事業ポートフォリオ改革はおおむね完了し、今後は既存事業の収益性改善に注力する段階か。**	エネでは、収益を下押しする事業がほぼなくなり、安定的に300億円台の利益を確保し、そこから積み増していく段階に入ったと考えている。計画していたポートフォリオ改革はおおむね完了したが、今後も外部環境の変化に応じて最適化を進めていく。事業単位に加え、製品・サービス単位でも収益性向上に取り組んでいく。
	アジアEPCの変動はあるものの、原子力事業など他の事業は高い収益性を確保し、エネが安定的に利益を生み出すセグメントになると考えてよいか。	原動機事業の収益性は大きく回復しており、カーボンソリューション事業も国内事業の収益性が高く、原子力事業も高い収益性を確保している。今後、より安定した事業運営が可能になると考えている。
	金利上昇下におけるキャピタルアロケーションの考え方と、今回の増配、設備投資の方針について伺いたい。	フェーズ1では、将来成長に向けた投資を優先する方針に変更はない。金利上昇を踏まえ、予定していた投資も将来の収益性を厳格に見極め、フリーキャッシュフローの管理を強化している。今回の増配は、成長の成果を株主の皆さまと共有するため、全社のキャピタルアロケーションの範囲内で実施した。今後3年間は引き続き投資フェーズと位置付け、資産売却も進めながら、成長事業の基盤を固めていく。フェーズ1では、1株当たり配当の持続的な増加を目指している。キャッシュフローの大幅な改善が見込まれる2028年度、2029年度以降のフェーズ2では、株主還元についてさまざまな選択肢を検討していきたい。

© IHI Corporation All Rights Reserved.

報告セグメント別内訳（2025年度2Q vs 2026年度2Q）

補足資料

IHI

（単位：億円）	受注高			受注残高			売上収益			営業利益（率）		
	’25年度2Q	’26年度2Q	増減	’25年度末	’26年度2Q末	増減	’25年度2Q	’26年度2Q	増減	’25年度2Q	’26年度2Q	増減
資源・エネルギー・環境	3,261	1,780	▲1,481	6,985	7,030	+45	1,591	1,787	+195	▲1 *(▲0.1%)*	7 *(0.4%)*	+8 *(+0.5pt)*
社会基盤	591	249	▲342	2,246	1,521	▲725	592	393	▲199	▲33 *(▲5.6%)*	▲44 *(▲11.2%)*	▲10 *(▲5.6pt)*
産業システム・汎用機械	2,234	2,266	+31	1,689	1,798	+108	2,094	2,105	+11	170 *(8.1%)*	114 *(5.4%)*	▲56 *(▲2.7pt)*
航空・宇宙・防衛	2,703	3,314	+610	6,566	6,556	▲10	2,739	3,348	+609	547 *(20.0%)*	722 *(21.6%)*	+175 *(+1.6pt)*
報告セグメント合計	8,791	7,610	▲1,181	17,488	16,906	▲581	7,017	7,635	+617	683	799	+116
その他	408	415	+7	195	214	+19	366	358	▲8	68	457	+388
調整額 （本社共通費用含む）	▲264	▲237	+26	-	-	-	▲248	▲200	+47	▲57	▲107	▲50
合計	8,934	7,787	▲1,146	17,683	17,120	▲562	7,136	7,793	+656	694 *(9.7%)*	1,149 *(14.8%)*	+455 *(+5.1pt)*
海外	4,560	4,483	▲77	3,616	3,597	▲18	3,962	4,485	+523			
海外比率	*51%*	*58%*	*+7pt*	*20%*	*21%*	*+1pt*	*56%*	*58%*	*+2pt*			

© IHI Corporation All Rights Reserved.

キャッシュ・フローの状況

補足資料

IHI

（単位：億円）	’25年度2Q	’26年度2Q	増減
税引前四半期利益	747	1,227	+480
減価償却費	367	413	+45
不動産売却益	▲38	▲426	▲387
PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム関連支出 ※1	▲206	▲224	▲18
運転資本増減 ※2	▲669	▲1,499	▲830
税金支出	▲494	▲152	+342
その他	▲277	11	+289
営業キャッシュ・フロー	▲571	▲650	▲78
投資キャッシュ・フロー	▲229	89	+319
うち、設備投資向け	(▲ 504)	(▲ 329)	(+174)
フリーキャッシュ・フロー	▲801	▲560	+240

※1：PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム関連支出は、従来の運転資本の増減と区別して記載
※2：運転資本増減は、営業債権/契約資産/棚卸資産/前払金/契約負債/営業債務/返金負債の増減額を示す
　　運転資本＝営業債権＋契約資産＋棚卸資産＋前払金-契約負債-営業債務-返金負債

（単位：億円）	’25年度2Q	’26年度2Q	増減
研究開発費	156	185	+29
設備投資額	402	538	+136
減価償却費	367	413	+45

© IHI Corporation All Rights Reserved.